



ppp accounting ~ quit

- [プライマリ, 2 ページ](#)
- [privilege level, 4 ページ](#)

プライマリ

指定されたトラストポイントをルータのプライマリ トラストポイントとして割り当てるには、**ca-trustpoint** コンフィギュレーション モードで **primary** コマンドを使用します。

primary name

構文の説明

<i>name</i>	ルータのプライマリ トラストポイントの名前。
-------------	------------------------

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

CA トラストポイント コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(8)T	このコマンドが導入されました。
12.2(18)SXD	このコマンドが、Cisco IOS リリース 12.2(18)SXD に統合されました。
12.2(33)SRA	このコマンドが、Cisco IOS リリース 12(33)SRA に統合されました。

使用上のガイドライン

特定のトラストポイントをプライマリとして指定するには、**primary** コマンドを使用します。

このコマンドを設定する前に、トラストポイントを定義して **ca-trustpoint** コンフィギュレーション モードを開始する **crypto ca trustpoint** コマンドを有効にしておく必要があります。

例

次に、トラストポイント「ka」をプライマリ トラストポイントとして設定する例を示します。

```
cr
ypto ca trustpoint ka
  enrollment url http://xxx
  primary
  crl option
al
```

関連コマンド

コマンド	説明
cryptocatrustpoint	ルータが使用する必要のある CA を宣言します。

privilege level

回線のデフォルト権限レベルを設定するには、ラインコンフィギュレーションモードで **privilege level** コマンドを使用します。回線のデフォルトユーザ権限レベルに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

privilege level level

no privilege level

構文の説明

<i>level</i>	指定された回線に関連付けられている権限レベル。
--------------	-------------------------

コマンド デフォルト

レベル 15 は、イネーブルパスワードによって許可されるアクセス レベルです。
レベル 1 は、通常の EXEC モードユーザ権限です。

コマンド モード

ライン コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
10.3	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRA	このコマンドが、Cisco IOS リリース 12(33)SRA に統合されました。
12.2SX	このコマンドは、Cisco IOS Release 12.2SX トレインでサポートされます。このトレインの特定の 12.2SX リリースにおけるサポートは、フィーチャセット、プラットフォーム、およびプラットフォームハードウェアによって異なります。

使用上のガイドライン

ユーザは、回線にログインし、別の権限レベルを有効にすることで、このコマンドを使用して設定した権限レベルを上書きできます。また、**disable** コマンドを使用することにより、権限レベルを引き下げることができます。上位の権限レベルのパスワードがわかっている場合、ユーザはそのパスワードを使用して上位の権限レベルをイネーブルにできます。

特定のユーザまたは回線に対するコマンドのサブセットを指定するには、レベル 0 を使用できません。たとえば、ユーザ「guest」に対し **show users** コマンドと **exit** コマンドだけを使用することを許可できます。

回線の使用を制限するには、コンソール回線に高い権限レベルを指定してください。



(注) Cisco IOS リリース 12.2SXI 以前は、Webauth（Web 認証）を正常に実行するためには Access Control System（ACS）で権限レベル 15 を設定する必要がありました。このリリースより後では、ACS の権限設定は必須ではなくなりました。



(注) **privilege level** コマンドでは一部の CLI コマンドがサポートされていません。たとえば、**router bgp** や **default interface** などのコマンドには権限レベルを関連付けることができません。グローバル コンフィギュレーション CLI では、これらのサポートされていないコマンドに対する権限レベルの割り当てが許可されますが、これらのコマンドはルータの実行設定の一部にはなりません。

例

次の例では、補助回線での権限レベル 5 の設定が示されています。補助回線を使用するすべてのユーザには、デフォルトで権限レベル 5 が割り当てられます。

```
line aux 0
  privilege level 5
```

次の例では、すべての **show ip** コマンド（すべての **show** コマンドを含む）を権限レベル 7 に設定します。

```
privilege exec level 7 show ip route
```

これは、次のコマンドと同等です。

```
privilege exec level 7 show
```

次の例では、**show ip route** コマンドをレベル 7 に設定し、**show ip** コマンドをレベル 1 に設定します。

```
privilege exec level 7 show ip route
privilege exec level 1 show ip
```

関連コマンド

Command	Description
enable password	さまざまな権限レベルへのアクセスを制御するローカルパスワードを設定します。

privilege level